

## <金標準、円安効果も一時的 9500 円の戻り売り基調・・・>



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）の発表では前年比で 3.4%、コア部門でも 3.9%と高水準を示したが、それでも市場は利下げありきの反応を見せている。また週末に生産者物価指数（PPI）の発表では、前年比で 1%、コア部門でも 1.8%と CPI と逆に低下するなど、生産者レベルでのインフレ圧力緩和が改めて示されており、3月における利下げ観測が高まりを見せている。また中東情勢では米英国軍がイエメンの親イラン武装組織フーシ派の拠点に大規模な空爆を行った事から、中東における地政学的なリスクが高まりを見せ、原油価格が 72 ドルへ上昇するなど、エネルギー価格を押し上げる動きに結び付いている。

特に年明けから NY 金は堅調な経済指標と織り込み過ぎた利下げ思惑の mismatch から金利上昇にドル高の悪影響を受けて 2020 ドルまで下げていたが、金標準先物は円安効果を受けて 9500 円を回復している。ただ円安効果も限定的と見受けられ戻り売りの基調には変化はないと思え、9550 円以上は売り対応が妥当に思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** と **シグナル** が上昇を続け、RCI でも **短期** が上昇し、**長期** も上昇しており、オシレーターは上昇を示唆している。ただ **10 日移動平均線** を日足が下回る可能性が高いと思え、戻り売りに注目したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,500,000 円(2024 年 1 月 15 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2024 年 1 月 15 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>